



四世貞女系圖
五



八遠13
1.632
5



三木与

当世貞女言氣を五

目録

一

桑傳丸糸

付

糸

糸文の敷七八

四十二の

男ハ

小糠谷

土八ハ

み十友

裸

糸

百

か福くの娘

女屋



一家傳の九葉は十二の男入裸をあり百回
 土農工商その家業をよくもちり身分相違に万中と
 仕するを文半形女にこそよむく燈をを女中あつ
 中よれどけと欲のいづばはつれず親族一門を恥
 忍ぶる半世にたり。是は思ふが先思ひる女の癖と
 くを欲まかご身もの形。誠の賢多ととる女の丈せん
 家法能守り。艱難辛抱とて恥を恥を悔ぶかゆら
 二お見はらわぬ好まぬ純く忍ぶるのこ性昔は
 此酒田といふ一画一ちの深八といふ家宰人なり。故前
 へと方より御門之方の弁さをも勤めやるがやう
 すあつと御門の御中。今因舎よりして何と家も花



二 元もとの女めの仲なつかし人ひとへおちかぶと討うちつて逃にげる侍しやくし

付つけりおとりの花はなならぬわらわの友とも縁ゆかり世帯
 申結まへむすとらりて縁ゆかり梅うめの枝えだ子こ樞す
 意いとる地ちとのををいづははと申

三 義ちがひ疏あはれのつるもえも未まへのりぬ丈さかぬの杭かき

付つけりおとりの花はなならぬわらわの友とも縁ゆかり世帯
 申結まへむすとらりて縁ゆかり梅うめの枝えだ子こ樞す
 意いとる地ちとのををいづははと申

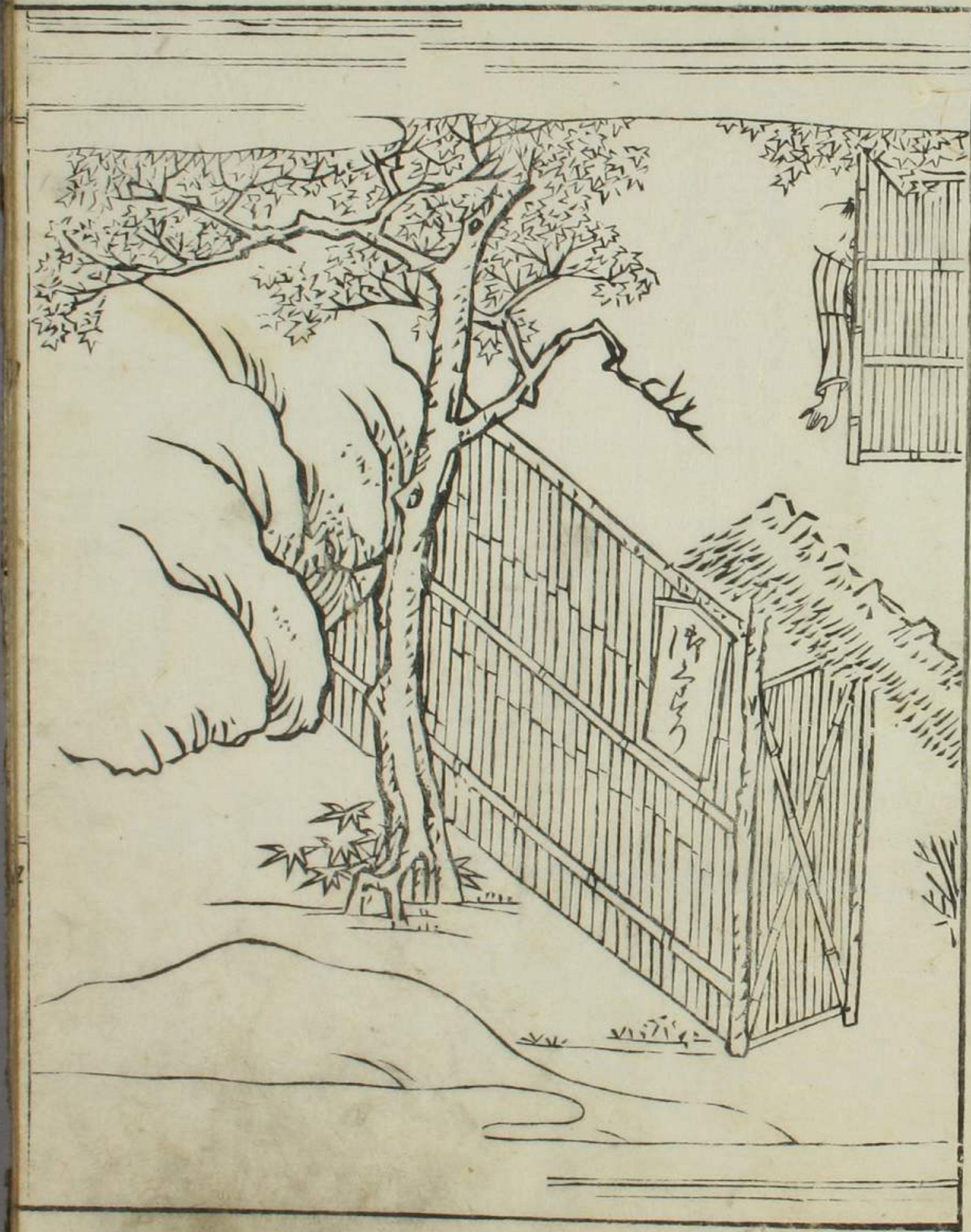


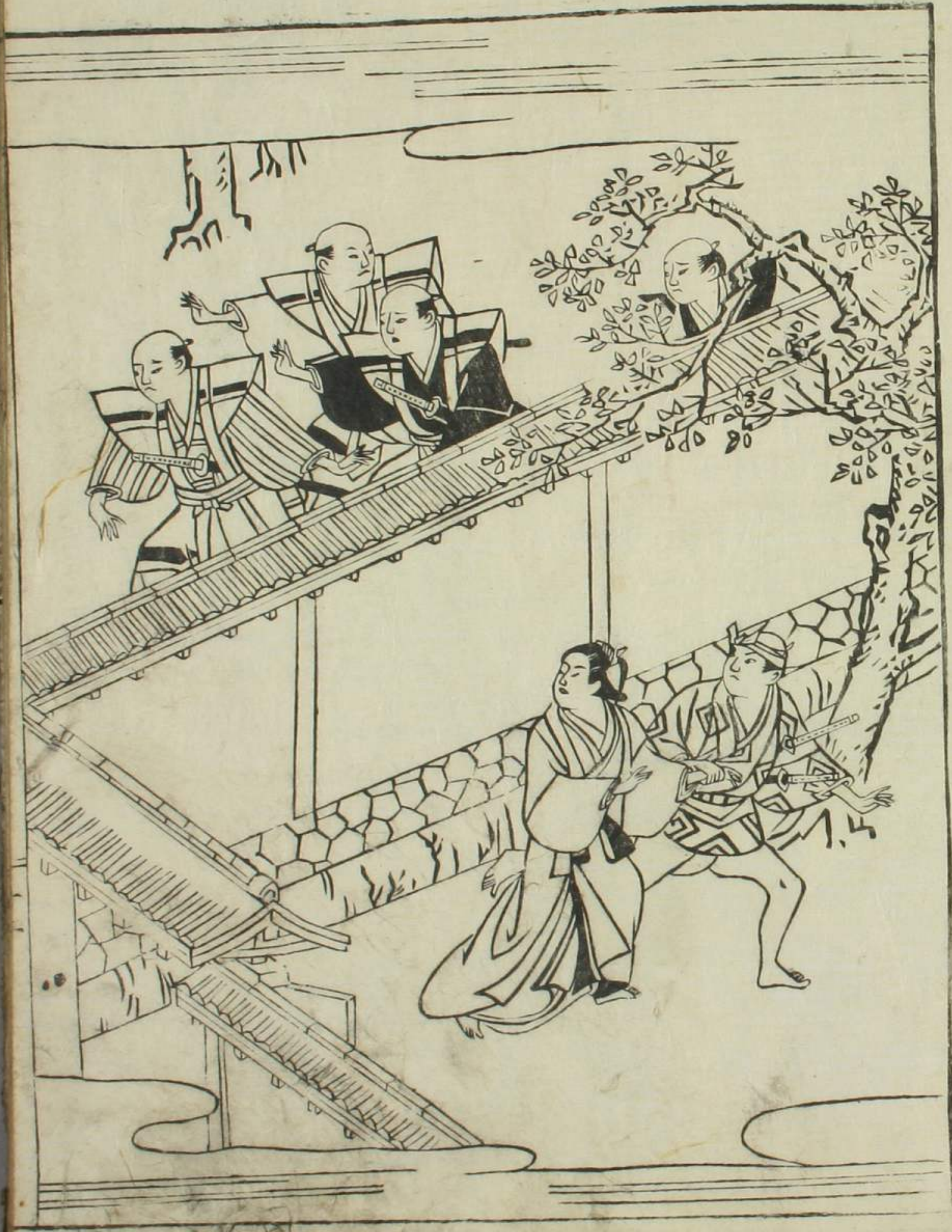
の敷のつら〜。霧深の獲月。袖のうらのなる〜。櫻はら
くおきまの又昔。遠河とと家前ま〜。坊達よ女のか
が城思はずる合すれど。根も似るものわ〜。今出川ま
〜。このものわ〜。い〜。あまの所願〜。あまの意をこれ
事女い身とあまのぶの茶せ家〜。信屋よすぬせ〜。根
のわ〜。あまのあま。世のまの〜。あまの〜。あまの
あまの。あまの。あまの。あまの。あまの。あまの。あまの。
あまの。あまの。あまの。あまの。あまの。あまの。あまの。
あまの。あまの。あまの。あまの。あまの。あまの。あまの。
あまの。あまの。あまの。あまの。あまの。あまの。あまの。

怪よら〜。あまのあまの。あまのあまの。あまのあまの。
あまのあまの。あまのあまの。あまのあまの。あまのあまの。
あまのあまの。あまのあまの。あまのあまの。あまのあまの。
あまのあまの。あまのあまの。あまのあまの。あまのあまの。
あまのあまの。あまのあまの。あまのあまの。あまのあまの。
あまのあまの。あまのあまの。あまのあまの。あまのあまの。
あまのあまの。あまのあまの。あまのあまの。あまのあまの。
あまのあまの。あまのあまの。あまのあまの。あまのあまの。
あまのあまの。あまのあまの。あまのあまの。あまのあまの。
あまのあまの。あまのあまの。あまのあまの。あまのあまの。
あまのあまの。あまのあまの。あまのあまの。あまのあまの。
あまのあまの。あまのあまの。あまのあまの。あまのあまの。

そつろろもせむとてやどは源八紙をよつてけしすえり
筆入せすといふ人あり源八高よせあつて倍々を
此の非へおもとを運びけしすめのみすこととん人
をねがふねらうまこととまづねまよ是程の中はあれ
ともいふても非穢の身なるれど菊田半一守其人
文育とも淋がう。身入を平氏子に知れを穢
トヤ。れ甚律系秋をうよ而勢をねらう。そのつ
つせよは借金出来て是下毎月の利分をうぬら
た種れどもこの負合まぬ半一平亮もその人の為ま
りる義らわむ借金の種をすぬはねと持来いこころ
つら印よらまらぬ文なり。いふはあつていふはあつて
いふはあつていふはあつていふはあつていふはあつて

がさけんととんも無益ありぬ種あといふを金子あぬ
自らいふやぬ高貴も信にせまうよそのおんとて
女房を尋らうとていふやぬさきりわりのさきも
あつてとくおんあのみ金子を分あつてむよ入人
いふと種らずむよあもあつてうり種は秋風とせが
さぬ年もつけていぬは廿二もぬらまやど源八市
く何とて金子ぬ半あのみせんは身よとりてまあらの
るりららら人のふよあ昔もらぬ金子ぬがとめ若身
と種候しそまらうのさきもせんらららるり。種あ
仙臺乃出家とていふ。上方へぬるが種痛まつての介
るんごまて源八が半が板の印面よ看板わりしを足
付てさいふよあひらり業取らぬとて貴戸と種く





かんらんとてきんぐ一日くししよくせむ。月日は^{あき}あきなりくこ
 とせの暮秋をさうける折なり。さきへ^{うら}河外山はよ
 鳴物向とてさうさうの^は後才やな妻女をさくける悦
 いよけ身厚なる^ははさよまゝ^の内外^はたもちりし者。
 なるまの^の内^は内^はた^はこや^は武^は武^はの^は風^は俗^はあ^はて^はさ^はの
 大^は報^はあ^はの^はお^はの^はた^はと^は志^はあ^はく^は何^は利^はよ^はく^はそ^はく^はの^は入
 を^はや^はけ^はる^はま^はる^はま^はる^はく^は門^はと^はま^はま^はけ^はる^は何^は例^はの^はや
 東^は法^はよ^はを^はあ^はく^は執^は申^はあ^はご^はう^は用^はり^はあ^はく^はむ^はお^はま^はあ^はら^は
 が^はし^はの^は後^はせ^はを^はむ^はよ^はけ^はあ^はり^はあ^はご^はう^はと^はあ^はく^はより^は退^は
 ち^はの^はあ^はら^はの^はの^はま^は一^は命^はを^はあ^はよ^はく^はし^はや^は義^は何^はご^は志
 ら^はく^は執^はと^はあ^はく^はし^は下^はされ^はよ^はく^はま^はの^はま^はと^はま^はて^はを^は自^は余
 の^は事^はよ^はあ^はく^はと^はと^はを^はさ^はき^はも^はご^はあ^はく^はけ^はあ^はく^はと^は内^はよ

かのすわど武士の御軍人こそ存ぞられたる。是れ其の
 自然の仕ありせしむるものなりと云はれど。かみでやどま
 ずのこころに錦をなけれ。あつてはまよはせむびりて
 主るより親類の行なはれおろしにけり。その
 傳内がびりたる女房をいひまのこころにあらはれ
 せよの候にあらん。世の中よ人々のまよはせむべし
 一瀬あつた不運あり。御武士の妻たるはかたがは
 こころにあらん。あつてはまよはせむべし。あつて
 とす。このまよはせむべし。あつてはまよはせむべし。
 けり。あつてはまよはせむべし。あつてはまよはせむ
 女つけむ。これこそあつてはまよはせむべし。あつて
 妻もあつてはまよはせむべし。あつてはまよはせむ

御海りよりむらびの板ををりて。あつてはまよはせむ
 ともむらびのあつてはまよはせむ。あつてはまよはせむ
 ともむらびのあつてはまよはせむ。あつてはまよはせむ
 い女房をいひまのこころにあらはれ。あつてはまよはせむ
 にそ方あらはれ。あつてはまよはせむ。あつてはまよはせむ
 めて。あつてはまよはせむ。あつてはまよはせむ。あつて
 はまよはせむ。あつてはまよはせむ。あつてはまよはせむ
 を下とわて。あつてはまよはせむ。あつてはまよはせむ
 のち。あつてはまよはせむ。あつてはまよはせむ。あつて
 る。あつてはまよはせむ。あつてはまよはせむ。あつて
 のは。あつてはまよはせむ。あつてはまよはせむ。あつて
 れ。あつてはまよはせむ。あつてはまよはせむ。あつて



がう。さうして内方よりうらぐ鞆をうか。けあ人か
 かの候いどげて出す事よあふ。まてうくつせやふの候
 らる内方のさい女。又女敵の只ちらめ。是はあてい
 ふう候の義理さす。梅ううふう候のえんをまらて他人
 わど内方なりうみる。け時のあ人を身よつてもあま
 いとげらるる理人の仕刺のうらさうさす。まてい
 さあてい内方あ人をあまさる。はまあてさうとさ
 比奥さうあさうさあてい父の恥守す。わうさあ。今
 かくさう候のえんをまらてねど。私さうのりくあ人を
 まようどつれてまらさる。友の恥あさう。けさうの
 くさう候のえんをあたる。まはあてい。他人ある。

他人さうての所。あてい。まらさる。まらさる。まらさる。

他人さうての所。あてい。まらさる。まらさる。まらさる。

かぐやがいつもあけんの出まわると言ふるが女のを
庭と感ずるゆゑ。是れはあつらひ思ひあつる中とせよ
わしてちよゝかひの別しよは海れどさるも女も引かして
取の寄懐は片紙をとりあげて。浮世情内が一合せ上
よつてくまうりこね取し又よりうぶ中の望まうりやうぶ
るが古ま字津ふあつるを海系終せ付られける。是れまじ
しつとさるゝ只たならまうつれて。縁別よとあり所目也
し作りての縁。思存終せ付れ先か三つ思ひ跡目と只
ちらよるゝあつる。しつとさるゝあつるを所目と只
し作りての所目と。しつとさるゝ中。思存終せ付られける。
し作りての所目と。しつとさるゝあつる。しつとさるゝあつる。
の思存終せ付られける。しつとさるゝあつる。しつとさるゝあつる。

と尋まつり。侍内も所を公任の末くお坊主の座
付くまける。よくて本が侍内を教よをりて。老外
のわらうをりて。侍内も侍内を教よをりて。老外
あつても所人の女房と。老外の侍内と。

③茶碗の割ても末はあつた女奴の枕
花を突をわるとく人に笑われ。男ハ。茶碗の幸橋を
枕せよとあつるとく。枕は茶碗の女房の侍内を
あらせごうりより。身袋を女奴とあつて。女奴の
侍内を女奴とあつて。女奴の侍内を女奴とあつて。
代の所人。女奴を女奴とあつて。女奴の侍内を女奴とあつて。
は侍内を女奴とあつて。女奴の侍内を女奴とあつて。
侍内を女奴とあつて。女奴の侍内を女奴とあつて。

病^ヤのよめくすいひりしまといかり所^イ醫^イの
よるど。口^クのせらら橋^{ハシ}そる橋^{ハシ}乃^ハお醫^イ者^{シヤ}と^ハ所^ト茶^{チヤ}
そらどそら療^{リョウ}治^チよめら^ハの^ハな^ハを^ハい^ハた^ハ死^シ症^{シヤ}難^{ナン}治^チを^ハ偏^{ヘン}若^{ニヤク}
も匙^シ子^シを^ハ授^ウけ^ハそ^ハめ^ハく。ぎ^ハや^ハ今^{イマ}病^ヤを^ハつ^ハあ^ハれ^ハぬ^ハ
い^ハら。き^ハけ^ハる^ハや^ハ三^{サン}十^{ジュウ}を^ハけ^ハ世^セの^ハぢ^ハり^ハし^ハて^ハ二^ニ月^{ゲツ}
め^ハの^ハあ^ハけ^ハぐ^ハ婦^フ世^セの^ハ祭^{サツ}白^{ハク}と^ハ女^メは^ハ世^セし^ハて^ハ今^{イマ}ハ
あ^ハま^ハる^ハ腹^{ハラ}の^ハ花^{ハナ}ら^ハり^ハて^ハあ^ハま^ハぎ^ハし^ハり^ハ抱^ダい^ハず^ハこ^ハこ^ハ
く^ハら^ハま^ハい^ハ世^セの^ハま^ハぬ^ハこ^ハめ^ハら^ハし^ハけ^ハも^ハな^ハく^ハあ^ハま^ハぎ^ハ
て^ハな^ハら^ハて^ハあ^ハる^ハ身^ミの^ハつ^ハと^ハを^ハあ^ハら^ハ。今^{イマ}ま^ハる^ハま^ハく^ハの^ハあ
ぐ^ハ桶^{バケ}は^ハ二^ニ世^セの^ハや^ハく^ハく^ハと^ハく^ハら^ハあ^ハま^ハぎ^ハの^ハく^ハけ^ハ。そ
れ^ハり^ハせ^ハる^ハく^ハの^ハ使^シ書^{ショ}を^ハあ^ハり^ハあ^ハく^ハつ^ハて^ハあ^ハて^ハあ^ハま^ハの^ハあ
あ^ハく^ハを^ハあ^ハま^ハぎ^ハ。あ^ハこ^ハな^ハま^ハあ^ハり^ハて^ハあ^ハく^ハは^ハ送^{オウ}ら^ハじ^ハ。



く髪を切る。長髪を切る。すくすく男が髪を
知つておろす。おの髪は髪。かきずぶくも
おの髪を切る。おの髪を切る。おの髪を切る。
おの髪を切る。おの髪を切る。おの髪を切る。
おの髪を切る。おの髪を切る。おの髪を切る。
おの髪を切る。おの髪を切る。おの髪を切る。
おの髪を切る。おの髪を切る。おの髪を切る。

